

## 吉野川を釣る！



(吉野川下流域の6月の風景)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに270種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在12種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

今年の初夏の釣果をご紹介します。

今回は、ここ4～5年はまっている穴釣りをご紹介しますと思います。

当然、普通の餌での穴釣りではなくルアーによる穴釣りです。

対象魚は、多種多様でアコウ（キジハタ）、ガガネ（カサゴ）、クロソイ、ムラソイ、タケノコメバル、アイナメ、クジメ、メバルのような根魚から、クロダイ、キビレ、カンダイのようなタイ類、アナハゼのようなカジカ類まで、釣ることが出来ます。

また、サイズもアコウ40cm、ムラソイ25cm、メバル30cm、クロダイ40cmと大きい物も釣れることがあり、油断は出来ません。季節は、春と秋が数多く釣れますが年中釣ることが出来ます。

道具仕立ては、穴釣り用の千円から2千円くらいの竿と2千円くらいの糸付きスピニングリールで、十分釣ることが出来るのでお手軽です。

ただし、カンダイ等の大物を狙おうと考える人は少し堅めの竿を用意することをお奨めします。

気をつけることは、竿の長さで、取り回しを考えると1.2～1.8mくらいが使いやすいです。短い方が釣りやすいのでなるべく短い竿を探しましょう！

ちなみに、私は、1.2mの手作り竿と昔バス釣りに使っていたベイト（両軸）リールを愛用しています。

ラインは、不意の大物用にフロロの2.5号を使用しています。

少し太いと思われるでしょうが、これでも30cm弱のメバルには、まあまあ切られます。

大型のアコウ、カサゴ（ガガネ）に至っては、強引に上げてこないと、穴に潜られてジ・エンド。

しかし、これ以上太くすると、食いが極端に悪くなる気がして、この太さに落ち着いています。

ジグヘッドも太軸を使用していますが、なかなか売っていないので、見つけた時は大人買いをしています。



少し見づらいですが今回のタックル

このようなタックルを使用しても、潜られることが良くあるので、水面とか穴の中央とかをまず狙い、そこで釣れない場合、だんだんと穴の際とか底とかを狙うようにするのがセオリーです。

次にポイントですが、なるべく外洋に面した潮の流れの当たるテトラ帯の方が大物・数も釣れます。

ただし、そういう所は皆さんも狙うため、スれていることが多いのでこればかりは、いろいろやってみて竿抜けポイントを探すしかありませんが、それもまた楽しいものです。

潮回りは、やはり大潮が良く、私の感覚では、満ち込みの潮がよく動いている時間が良いことが多いです。



こんなところを狙います。



ただ、ポイントにより引き潮が良い場所もあり、これも数多く通ってやってみるしかありません。

もう一つの条件は、風・波です。無風・波なしが釣りやすいのですが、こんな時は釣れません。

多少波だって、サラシ（白い泡）が出るくらいが好条件です。

ただし、安全第一ですので十分気をつけて波が被るようなら撤収しましょう。

穴は小さくて深い方が釣れる確率が高いように思います。ただし、穴が小さければいろいろなところにスれて切れることも多くなります。



見えにくいですがベイトです。

ながながと釣り方を書いて来ましたが、お待たせしました。  
 それでは、実釣編です。遠征にも疲れが出て近場で、メバルの刺身でも狙おうと、出撃しました。  
 この日は6月初旬の暑い日でしたので、日が陰る17:00から吉野川下流のテトラ帯に入ってみました。  
 潮回りは、小潮で16:47干潮と上げ潮のタイミングです。風も気持ち良く吹いていて、波も丁度良い感じで魚の気配がぶんぶんしている状況です。  
 三連ブロックの陰を狙うといきなり飛びついてきたのは、めずらしいタケノコメバルでした。香川では少なくなつて放流事業が盛んです。



ファーストヒットは、19cmのタケノコメバル



底の方を狙い、22cmのガガネ

つづいて、少し底の方を狙ってみるとゴゴンと当たりがあり、穴に潜られながらもなんとか釣れたのは、まあまあサイズのガガネ(カサゴ)でした。  
 穴釣りのキモは、一匹釣れたら必ずラインを確認することです。このときもスレてラインがザラザラになっていたのですぐに結び直します。

次は、少し浅い底の見える穴を探て見ると茶色い小さな魚が、ガンガン追っかけてきます。  
 1匹目は、数回追っかけて来ましたが、ヒットに持ち込むことは出来ませんでした。  
 それでも諦めずに、同じような所を狙うと今度は、しっかりヒットしました。  
 釣れたのは、なんと小さなアイナメ(アブラメ)でした。私の自宅付近では、こんな小さなアイナメは最近お目にかかれなくて、びっくりしました。



浅い穴を狙い、15cmのアイナメ



アイナメに良く似た、24cmのクジメ

地球温暖化のせいか、北方性のアイナメは、瀬戸内では少なくなっており、最近30cm以下は釣れてなかったもので、小さいものが釣れて、まだまだ世代交代が続いているのが分かり嬉しかったです。



続いて、良く似た魚のクジメも釣れました。違いは尾の先が丸いか直線なので、中には間違っている方もいるのでは？  
 味はアイナメが上で食べ比べると良く分かりますよ……

ガガネなどを何匹か釣っているとまた違う魚が竿を絞り込みます。

今度は、クロソイです。こちらも北方性の魚で昔は、大きなものも釣れていたのですが最近、小さくなり数も釣れなくなっている魚で、これも嬉しい出会いでした。  
大きい物は刺身や鍋が最高の魚です。



少しサイズに不満がある 21 cm のクロソイ



冬場の救世主 15 cm のアナハゼ

最後に登場するのは、**冬場の救世主**ことアナハゼ君です。

この魚は、一年中浅場においてルアーが大好きです

他の魚は食いが渋い冬場にも、ルアーをガンガン追っかけてくれてポーズ逃れをするのに重宝する魚です。

ただし、食べるのには不向きで右の写真でもお分かりのとおり、**ミドリ**なのです。

口だけでなく、骨、身に至るまでミドリなので、沖縄で出るようなミドリの寿司が好きな人はともかく、普通の人には食欲が湧かないと思います。

ちなみに臭いはセロリの臭いです。



口の中、回りはミドリ

と、こんな感じで釣れ続け、最終的にはカサゴ7匹、タケノコメバル2匹、クロソイ1匹、アイナメ2匹、クジメ2匹、アナハゼ2匹、合計16匹と大漁でした。実釣時間は、17:00~19:30でしたが、写真ばかり撮っていたので、実質2時間弱でしたので上等です。

短時間で、これだけの種類が釣れるところは、四国でもあまりなく、吉野川の豊かさが海水魚にも恩恵を与えていることを実感させられます。

#### <タックルデータ>

ロッド：穴釣り用ロッド (1.2m自作)

リール：両軸リール 2000番

ライン：700カーボン 2.5号通し

リーダー：なし

ルアー：1.3g ズグハット +2 イチワム



今回の釣果です。19~24cmの各種魚です。何種類分かるかな？

私の地元では、カサゴは余り釣れずムラソイがメインでメバルもよく釣れるのですが、「所変われば品変わる」と言います。やはり、地域により釣れる魚が違うことを実感しました。

まあ、一度だけの実釣ですので今後の調査で変わるかも知れませんが、今後の穴調査に乞うご期待下さい。

いつもは、あまり持ち帰らないのですが今回は、撮影のため、多めに持ち帰りました。

今回は、遠征疲れのため、近場の確実に釣果が見込める釣りに終始しましたが、私の地元で楽しんでいる穴釣りが吉野川でも有効であることが実証され、満足のいく釣行となりました。

この投稿が掲載される9月からは気温も下がり、また、釣りの的には魚種も豊富となり良い季節になります。

穴釣りも良く釣れる季節となりますので、皆さんも誘い合って釣りに行って下さい。

今回、6魚種ゲット。通算18魚種となりました。さて次は何を狙おうかな？

### 釣り人Nのお魚紹介コーナー



#### <タケ/コメバルうんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 メバル科 メバル属 タケ/コメバル

棲んでいるところ: 海水魚、北海道から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海等。

四国では、香川以外では、希少。私は今回で6匹目

大きさ: 四国では、30cm以下が多いが東北では50cmを超えるものもいる。

名前の由来: タケ/コが生えるころ美味しくなることから。東北ではベッコウソイといりルアーフィッシングの好ターゲット。関東から遠征して釣られている。

食べているもの: 動物食性で小魚、甲殻類、多毛類などを捕食する。

食べ方: 汁、煮付け、刺身(焼霜作り)、焼く(塩焼き)。旬は春

#### <カサゴ(ガガネ)うんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 メバル科 カサゴ属 カサゴ

棲んでいるところ: 海水魚、北海道~九州南岸、東シナ海、八丈島

大きさ: 25cmほどになる。沖では30cmオーバーも、似た種類のウツカリカサゴはさらに大きい。

私の記録は、33cm

食べているもの: 動物食性で小魚、甲殻類、多毛類などを捕食する。

食べ方: 刺身、塩焼き、煮付け、唐揚げ 煮付けが定番だが、25cm以上あれば刺身が最高

ただし、全長の1/3くらいが頭なので大きいことが必要。沖の赤いのより波止の茶色が美味しい。

旬は秋から春

<アイナメ(アブラメ)うんちく>

ススキ目 カジカ亜目 アイナメ科 アイナメ属 アイナメ

棲んでいるところ:海水魚。浅い岩礁域、北海道～九州南岸、東シナ海

大きさ:通常35cm程度であるが、関東以北では60cmオーバーも！私の記録は、39cm

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。

食べ方:刺身、焼き物(木の芽焼、幽庵焼き)、鍋、味噌汁、煮付け、唐揚げ、天ぷら、パエリア

25cm以上あれば刺身もいける！

白身の高級魚。鮮度が落ちやすいので、必ず活け締めにした方がよい。旬は冬から初夏

※側線が5本もあり、落ちてくるものに対して良く反応する。

※一般的には、フラクリと呼ばれる針付きおもりにゴカイ等を付けて釣る。

<クジメうんちく>

ススキ目 カジカ亜目 アイナメ科 アイナメ属 クジメ

棲んでいるところ:海水魚、北海道～長崎県・五島列島の日本海沿岸、北海道～土佐湾の太平洋沿岸

大きさ:全長30cm程度になる。

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。

食べ方:アイナメと同様 25cm以上あれば刺身もいける！

鮮度が落ちやすいので、必ず活け締めにした方がよい。旬は冬から初夏

アイナメと混同されていることが多い。アイナメより味は劣るとされている。

<クロソイうんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 フサカサゴ科 メバル属 クロソイ

棲んでいるところ:海水魚、水深5～100m岩礁域、北海道～九州北岸、東シナ海

大きさ:全長30cm程度になる。関東以北では、50cmオーバーも！

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。大きくなると魚も食べる。

食べ方:刺身、塩焼き、煮付け、カルパッチョ、汁(潮汁、鍋、味噌汁) 25cm以上あれば刺身・鍋が最高！

※北の方には、キツネメバル、タヌキメバル、シマソイ、ゴマソイとソイの仲間が沢山います！

旬は冬から春

<アハハゼうんちく>

ススキ目 カジカ科 アハハゼ属 アハハゼ

棲んでいるところ:海水魚、日本全国の沿岸域、漁港、テトラ帯によくいる。

大きさ:全長20cm程度になる。

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べるが魚食性が強い。

食べ方:好んで食べる人は、少ないと思われるが、体表のめめりがひどいので良く取ってから調理すべし、

刺身、味噌汁、天ぷら、唐揚げ (HPでは、食味よしの情報も)

※オスは、大きな生殖器を持つ

※似た種類にアサシアハハゼ、キリンアハハゼがいる。

※一年中釣れるため、冬場には重宝する。